

年 組 名前：

甘利山 協力金で整備進む

新しく設置した道標(左)

|| 韮崎市旭町上條北割



市商工観光課の担当者は「来訪者の声を聴きながら、今後の使い道について継続的に検討していきたい」と話している。

同じ期間に現地でアンケートを行って、今年は625人が回答。協力金の使い道について複数回答で尋ねたところ、「登山道の整備・補修」(399人)が最も多く、次いで「トイレの設置・清掃など」「道路の整備・補修」と続いた。

甘利山はレンゲツツジが見頃を迎える5月下旬～6月中旬に観光客でにぎわう一方、登山道の老朽化やシカによる食害が課題になっている。自然環境保全や整備、調査研究などを目的に、昨年から、市や観光関係者らでつくる南アルプスユネスコエコパーク韮崎地域推進協議会が、レンゲツツジの見頃に合わせて、訪れた人に1口500円で任意の協力金を呼びかけている。昨年は17日間で74万4130円(1222人)、今年は15日間で76万2869円(1827人)が集まった。昨年、市は15日間、1827人が集まった。昨年、市は15日間、1827人が集まった。

登山道に道標、木道修繕

韮崎 昨年から任意で呼びかけ

南アルプスのユネスコエコパーク(生物圏保存地域)の緩衝地帯に位置する韮崎・甘利山で、民間資金を活用した登山道整備が進んでいる。昨年、レンゲツツジの開花期に環境保全協力金(入山料)を任意で募っており、今年はハイキングコースに道標を新設した。来訪者へのアンケートを行って結果を基に、道路の整備やトイレの設置など使い道を継続して検討していく。

〈中嶋寿美子〉

(2026年9月5日付 山梨日日新聞 15面)

問1

韮崎市の甘利山で、環境保全協力金(入山料)を任意で募っている目的を教えてください。

.....

問2

昨年集めた協力金は、どのようなことに使いましたか。

.....

問3

今年のアンケートで、今後の協力金の使い道として多かったものを3つ教えてください。

.....